

三島市郷土資料館の収蔵資料

企画展「文化と生活のお宝探訪～収蔵品展～」より



栗原 忠二「月島の月」

くりはら ちゅうじ
栗原忠二

栗原忠二は、明治19年三島市中央町の旧家に、栗原宇兵衛の次男として生まれました。葦山中学（現葦山高校）から中央大学に進み、明治40年東京美術学校（現東京芸術大学）に入学します。在学中からイギリスの風景画家ターナーに傾倒し、同級生からは「栗原ターナー」と称されていました。

明治42年、第12回白馬会展に「月島の月」が入選します。この入選を契機に大正元年渡英し、イギリス画壇の巨匠フランク・ブラングインに師事、大正8年には英国王位協会の準会員に推されます。帰国後は東京西荻窪にアトリエを構え、作品の制作を続けながら、後進の育成に努めました。昭和11年に50歳でこの世を去りました。

「月島の月」は忠二の母校三島南小に長く展示されていました。



東海道五十三次之内 三島(保永堂版「朝霧」) 初代広重

浮世絵の中の三島

三島は東海道の宿場として栄えた町です。宿場時代の三島の風景は、浮世絵「東海道五十三次」などの中に見ることができます。

三島明神（現三嶋大社）は、三島を象徴する風景として、しばしば画題とされました。

初代広重の代表作保永堂版「東海道五十三次」では、朝霧が深くたちこめる明神鳥居前を出立したばかりの旅人が描かれています。早朝の霧も三島を特徴づける風景だったのでしょう。「隸書東海道」（初代広重）は明神の鳥居で三島と判ります。

これらの浮世絵から江戸時代の三島宿の賑わいを偲ぶことができます。



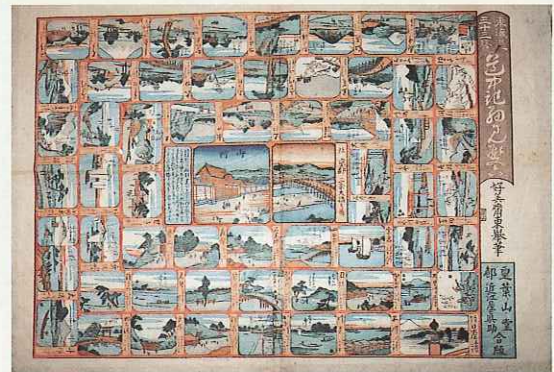
春興五十三駄之内三島 北斎 1804(享和4)



東海道十二 五拾三次之内 三島 初代広重



東海道五十三次三島(隸書東海道) 初代広重



東海道五十三次 道中記細見双六 好美堂東拳 江戸末期



東海道三島(御上洛東海道) 三代豊国



東海道五十三次之内三島之図 歌川国貞



五十三次名所図会三島 三嶋明神一の鳥居 初代広重

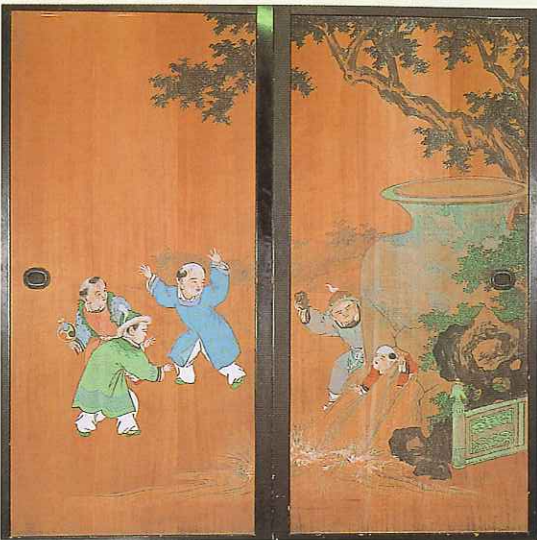
梅御殿杉戸絵



足柄山(新羅三郎吹笙)図 湯川松堂 画



経正竹生鳥詣図



司馬温公図 龍雲 画



郭子儀図 湯川松堂 画



藤図 龍雲 画



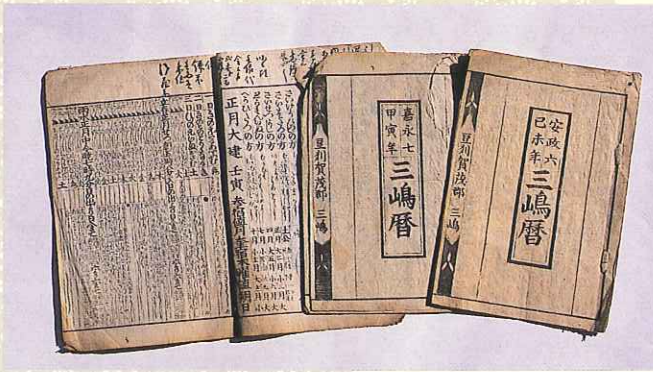
秋草鶉図 龍雲 画

うめぐてん すぎとえ
梅御殿と杉戸絵

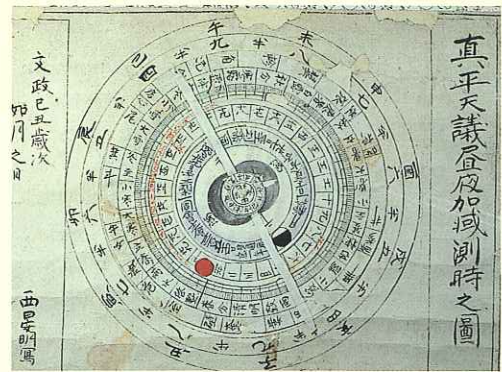
楽寿園内の「梅御殿」には、御殿内を雅やかに彩る杉戸絵や襖絵が描かれています。明治中期に描かれた杉戸絵は合計10面。小部屋の入り口、廊下の突き当たりなどに嵌め込まれています。画題は中国の故事を題としたものが4面、日本の故事を題としたものが4面、残り2面は花鳥画となっています。

筆者は、落款・印章などから湯川松堂、龍雲、海外天年、直泉の4名が浮かび、そのうち龍雲と直泉については現在のところ系譜などが判明しておりません。

三島曆



三島曆



真平天議昼夜加減測時之図
河合家文書 1829(文政12)

三四呂人形



水辺興談



桃子(左)・里子(右)



五月の賦



春日庭



官伎

みよろ 三四呂人形

三四呂人形の作者、野口三四郎のぐらさんしろうは明治34年に三島大中島(現本町)の野口質店の次男として誕生し、その名は生まれ年34からとられました。そして自分が創作した紙塑人形にも「三四呂」人形と名づけています。

葦山中学(現葦山高校)時代から芸術的才能を示し、昭和4年頃、張子人形の製作を始め、昭和11年「水辺興談」で人形芸術院賞を受賞、翌昭和12年に37歳という若さでその生涯を閉じるまでの間に数々の名品を残しました。

「水辺興談」を始め「桃子さん」「里子さん」など、三四郎の作品は子どもの遊びの世界や子どもの一瞬の表現を捉えた秀作が多いのが特徴です。

企画展

「文化と生活のお宝探訪～收藏品展～」

開催期間

平成14年4月27日～平成14年11月10日

発行日 平成14年 4月27日

三島市郷土資料館

〒411-0036 三島市一番町19-3 楽寿園内

TEL 055-971-8228 FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp